

貨物会社「低額ベア」回答への抗議と要請を！

「ベア平均1,800円=(低額1,500円+定率0.1%(平均300円)を実施する」

社会的にも「大幅賃上げ！」が求められる中、安全・安定輸送を担う社員の「やる気」を削ぐものでしかない！

ベアを実施しても、物価上昇分を超えた賃上げでなければ社員の生活改善に追い付かない！

3月14日、貨物会社は「2024年4月1日以降の賃金引上げに関する申し入れ」(国労闘争申第8号)への回答としてベアについては平均1,800円「定額1,500円+定率0.1%(平均300円)」を実施するとした。

2018年以降、貨物会社の賃上げは、「ベア300円」「ベア200円」の実施や「200円の賃金改善措置」、再び「ベア・ゼロ」へと回帰し、一昨年は「基本給に定率0.1%(平均300円)の上乗せ。昨年は定率0.1%に700円を加える回答を行ったが、かつて18年連続の「ベア・ゼロ」を実施してきた一方で、貨物会社は利益剰余金を積み増してきており、社員の厳しい生活実態からすればコロナ禍を経て、物価高騰の下、苦しい生活を余儀なくさせられている社員のモチベーションは著しく低下してきている。

「労働協約」交渉では「企業の発展」と「組合員の生活の維持向上」を議論し、「どちらも重要な課題である」との労使の共通認識から言っても逸脱してものと言わざるを得ない。

これまで貨物会社の経営は、「鉄道事業部門の黒字化」「経営の安定」や幾度にも及ぶ自然災害、この間のコロナ禍など様々な「経営課題」を理由に、今回も「社員犠牲」で乗り切ろうとする会社経営陣の姿勢に対して、社員・家族の生活は改善するどころか悪化の一途を辿っている。

今回の回答は一昨年、昨年と続く3年連続の「有額」回答ではあるものの「低額ベア回答」でしかなく社員の落胆は大きい。

相つぐ値上げなど物価上昇の一方で労働者の実質賃金は年々減少する中で、今、24春闘では自動車をはじめとした大手企業は「満額回答」や要求額を超える回答を示している。今回の回答は、貨物会社に働く社員や家族の生活改善を実現するには程遠いものであり、到底納得いくものではない！貨物経営陣に対して、全て職場から「抗議行動の展開」を要請する！

**国労要求17,000円を支払う
経営体力は着実に削られている！
設備投資より社員への賃上げを優先するべきだ！**



「低額ベア回答」への抗議と要請行動

※3月21日(木)正午まで